

丹後・経ヶ岬米軍レーダー基地が本格的運用開始 「安全・安心」はどこへ！ いまこそ撤去の声を！

京都平和委員会事務局長 片岡 明

10月21日に本体が搬入され、11月1日には飛行制限区域が設定され、12月末に「運用開始」と時間がかかっているようですが、もともとが移動式レーダーの部隊ですから、燃料をはじめ主要機材がそろえば、短時間で使えるようにできるものなのです。このことは、すぐに「ミサイル発射」がおこなわれるとか、この基地がないとミサイル攻撃を迎撃できないとかいう差

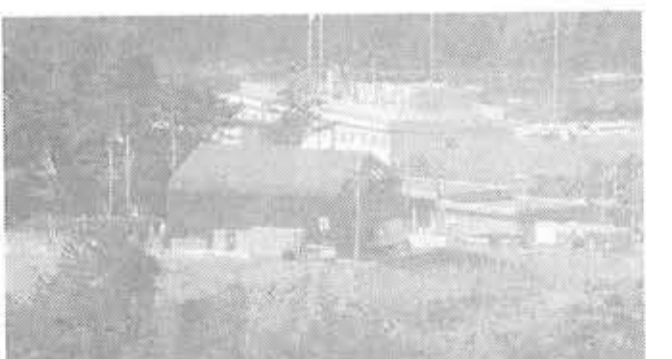
し迫った状況ではないことを示しています。しかし、レーダー本体と付属の装置がそろって、試運転中から電波を照射してしていることを示す赤い警告の標示がかかげられています。レーダーを動かすための発電機や冷却装置出す「音」だけでなく「低周波」は四六時中、住民を苦しめています。排気ガスや基地警備の照明もあたりの環境に影響するでしょう。警備につくシエネガ社の軍属はM16A2というアメリカ陸軍制式自動小銃をたずさえて基地内に立っています。部隊編成も基地施設も青森の基地とは違い、数段強化された基地となっていますが、そんな警戒をしなければならぬほど重要な基地だということです。



レーダー基地の警備につくシエネガ社の軍属。所持しているのはM16A2という自動小銃

軍人・軍属たちはバスでの通勤以外にレンタカーを使っているわけで、年末の集会(12月23日開催)のころまでに6件の交通事故を起こしています。この状態を放置すれば、そのうち大きな事故を起こすであろうことは「ハイソリッヒの法則」が示しています。これまで、貴重な自然環境を破壊し、住民の安全・安心の確保を置き去りにしたままの彼らに対して、私たちが何もしなければ十年先も百年先も米軍基地の街にされてしまします。

レーダー基地の「運用」つまりアメリカ軍の太平洋軍司令部や北米防衛司令部とつながって、宇宙・地球規模の「ミサイル防衛」での実践使用がはじまったということです。そういうかわりでは、そう遠くないうちに、どこかの国がミサイルを撃ち上げることもあるでしょう。その際にこの基地のレーダーが日本の防衛に役に立つのかどうかはわかりませんが、米軍レーダー基地があつてよかったというようなことでなく、ミサイルの撃ち上げをさせない外交努力こそが必要だということを多くの人々に知らせなければなりません。



基地の「運用開始」直前の光景。米軍レーダー(AN/TPY-2)が見える。

にはイージス艦などが発射する迎撃ミサイルを整備する施設が出来ており、米軍基地警護には陸上自衛隊福知山駐屯地の部隊が出勤することになります。京都北部がミサイル防衛の最前線基地、さらに集団的自衛権行使の拠点になるようなことをやめさせなければなりません。早い時期に安倍政権にストップをかけ、政治の流れを転換しましょう。自然環境など米軍レーダー基地建設で失ったものは大きいですが、人々は心まで失ってはいけません。特定秘密保護法の発動を許さず、不屈に、あきらめず、知恵と力を合わせていきましょう。

経ヶ岬の基地は今年、自衛隊側の拡張工事にも入る見込みです。海上自衛隊舞鶴基地

「粛々と進める」の一点張り。民主党の代表選挙では、代表となった岡田氏は、テレビで沖縄新基地問題を問われ、「辺野古しか考えられません」と即答。これにはびっくり。自民党は、「民主」を独裁と解し、民主党は「民主」を理解できない、政党内から「民主」の名を消しなさいと言いたい思いだ。「民主主義を理解する」国民が手を携えて、新基地建設撤回、基地撤去まで沖縄と連帯して闘おう。(K)

平和の風

今年の年賀状に、「昨年の沖縄知事選挙に行ってきた。とても楽しい選挙だったよ」